

生産拠点 の変遷

横浜工場から横浜製作所へ

当社は、宝田石油会社（当時）から横浜市保土ヶ谷駅付近の約2万6,450㎡の土地（現 保土ヶ谷区西久保町）を購入し、1919（大正8）年9月、従業員265人で横浜工場の操業を開始した。しかし、1923（大正12）年9月1日の関東大震災、続く1926（大正15）年3月10日の大火災によって工場は甚大な被害を受け、その後、横浜工場は近代的な工場へと建て替えられた。

やがて戦局が進むにつれて生産体制を転換、1937（昭和12）年、隣地2,168.6㎡に本格的な製鋼工場を建設し、同年3月以降操業を開始した。ここではほぼ軍需生産に終始し、1942年には陸海軍共同管理工場となり、名称も1945年4月に横浜鋳鋼所、9月には横浜鋳造所と度々改名された。

戦後、1948年10月には重電機部門の製作設備を戸塚製作所から移管し、名称を横浜工場へと改称した。ここでは主に回転機器（車両用主電動機・車両用電動発電機・ディーゼル発電機・ターボ発電機・誘導発電機・大型ASモータ）を製作した。その後、創業50周年に先立つ1968年にスタートした5カ年計画において、生産革新運動がスタートし、さらに、創業60周年を迎えた1978（昭和53）年には工場再編成を進め、1985年4月11日、横浜市金沢区福浦に用地約5万5,000㎡、床面積約3万2,500㎡の新横浜工場を竣工した。人員は旧横浜工場の約530人から約360人体制での生産効率を備えた。旧横浜工場は1985年5月に閉鎖され、およそ66年間にわたる生産活動を終了し、その役割を新横浜工場へと引き継いだ。

続く1988年の創立70周年を機に、経営・技術全般の中期経営計画の中で、横浜工場の増設を決定した。この時期、プリント板の生産ライン改善計画が検討され、相模・京都の電子工場の統合を図る目的で、1992年3月、横浜工場の増設部に電子工場を新設した。

創業75周年を迎えた1993年、日本経済は「複合不況」のただ中であつたが、同年2月、横浜工場を横浜事業所と改め、さらに横浜・相模の2事業所体制の下で生産の効率化と業務革新を図り、この再編が整った1995年6月、横浜事業所を横浜製作所として改組した。さらに1999年7月、相模製作所も横浜製作所に統合した。

その後、2010年1月に開発・設計能力の拡大を図るため、5階建て、延床面積5,755㎡の「エンジニアリングセンター」を竣工し、併せて生産能力の増強を目的に横浜製作所内のレイアウトを再編した。2014年6月よりスタートした中期経営計画「NEXT100 ～ 100年のその先へ～」では、基本施策として「生産体制の再構築」を掲げ、



横浜工場のネオン



横浜製作所（2016年）

横浜製作所と滋賀工場に分散していた産業工場を滋賀竜王工業団地内に建設する新工場に一本化するとともに、交通工場としての横浜製作所の生産能力の拡大を推進した。

戸塚工場・相模工場の開設と閉鎖

戸塚製作所・戸塚工場

横浜工場に製鋼工場を建設したことと前後して、1937年8月に横浜市戸塚区上倉田町に約4万330㎡の敷地を購入し、翌年8月に隣接地約1万8,380㎡を追加購入して、戸塚製作所の建設が始まった。1939年5月頃から建物が順次完成し、横浜工場から設備を移管、12月1日より電気機器・兵器加工・火砲の製作を開始した。

戦後、奇跡的にも戦火を免れた戸塚製作所は、電気機器の修理や製作に奮闘し、戦後復興への当社再建の足掛かりとなった。しかし、戦後のインフレが一向に終息しない1948年、設備の合理化を図る大改善を行い、名称も戸塚工場と改めた。

1963年7月、第3工場を増設するも、1965年10月13日に第4工場が出火し、建物約1,300㎡が全焼した。その後、2階建て・総面積約3,600㎡の第4工場を建設し、1969年3月から操業を開始した。主要製品は、回転機を除いたカルダン駆動装置・パンタグラフ・戸閉装置などの鉄道車両用機器の他、産業用各種自動制御機器、油圧機器、FU無段変速機、数値制御機器、交流遮断機など、多岐にわたった。

しかし、1976年6月1日からスタートした「PD3カ年計画」において、3工場体制への再編成が決まり、その後、戸塚工場の制御関係製品を相模工場に移転し、1983年5月、戸塚工場を廃止した。



全焼した戸塚工場第4工場（1965年10月）

相模工場・相模製作所

創立50周年に先立つ1968年、「第1次5カ年計画」がスタートし、同年10月に相模工場の建設が決まった。場所は神奈川県高座郡海老名町柏ヶ谷（現 海老名市柏ヶ谷）、用地は約4万1,000㎡、当社4番目の工場として1970年4月10日に完成した。相模工場ではエレクトロニクス・自動制御関係の生産を主体とし、その後、戸塚工場の閉鎖とともに制御関係製品を引き継いだ。さらに1979年3月2日、2・3号棟を増設し、マイクロエレクトロニクス・パワーエレクトロニクスによる鉄道・産業用システム機器の主力工場として稼働した。生産品目は、電子装置、産業用制御装置、鉄道用制御装置（パンタグラフ・駅務機器・数値制御機器・プリント板）、板金、塗装などで、人員は約450人、旧工場より60%増員した。

その後、生産ラインの増加によって工場が手狭になったことから、1984年6月12日、3号棟を増設、生産体制を増強した。建築面積3,130㎡・延床面積5,713㎡であった。



相模工場正門

1993年2月、名称を相模工場から相模事業所と改め、京都工場を相模事業所の下部組織とした。さらに1998年10月からスタートした「R80-II計画」の下、相模事業所から再改編した相模製作所を横浜製作所に統合、横浜製作所相模分工場と改称したが、当社の合理化施策の一環として2003年5月に売却した。

福井製作所の開設と閉鎖

福井製作所は軍需の急増に伴い、軍からの要請を受けて、急ぎよ新設されたものである。場所は福井県丹生郡朝日村（現 朝日町）、用地3万6,396.9㎡の、山仙織物工業（当時）所有の土地・建物を購入し、1944年4月10日、操業を開始した。ここでは海軍発注の航空機無線電源装置を専門に製作した。

戦後、工場はまったくの無傷で残ったが、長引くインフレにあって設備の合理化、生産効率の向上、コスト削減などを鑑み、1947年8月に福井製作所の廃止を決定、翌1948年9月、閉鎖・売却した。

京都工場の開設・閉鎖から滋賀分工場の開設

1955年9月、増産体制の確立を目指して、新たに京都工場の建設が決まった。京都市の幹旋により寿工場（当時）の用地4万3,110㎡（現 京都市南区上鳥羽鉾立町）と建物を譲り受け、1957年4月20日から操業を開始した。従業員86人でスタートした京都工場は、三相交流整流子電動機（ASモータ）の生産が主流であった。

その後、1976年ごろから再編成に着手し、産業用発電機・制御装置を中心とするラインを組み直し、約430人の人員を擁してASモータの他、NSモータ・誘導電動機・直流電動機・配電盤などを製作した。しかし、長引くインフレの中、1993年2月、京都工場を相模事業所の下部組織に移行し、遊休となった用地の一部を売却した。さらに1997年にスタートした「R80計画」の下、残りの用地も売却し、同年7月に相模製作所が横浜製作所に統合されたことにより京都工場は廃止され、産業製品の製作は、1998年11月に開設した滋賀分工場（後に滋賀工場）に移管した。



京都工場（1994年）



滋賀工場（撮影年不詳）

滋賀竜王製作所の開設

1980年代後半からの工場改編以降、産業工場は設計開発部門と品質保証部門が横浜地区、製造部門が滋賀地区に分割されたが、その後の事業構造の変化によって効率化の必要に迫られていた。

2016年にバージョンアップした中期経営計画「NEXT100 Ver.2」の下、生産体制の再構築の一環として産業工場は滋賀竜王工業団地

内（滋賀県蒲生郡竜王町大字岡屋）に「滋賀竜王製作所」として統合され、用地約 3万2,706㎡、延床面積1万9,997㎡の規模で2018年1月31日に竣工、同年3月1日から供用を開始した。人員は、横浜製作所産業工場、滋賀工場から集結し、2018年6月から本格稼働した。なお、同敷地内には子会社のティーディー・ドライブも移転した。

両社合わせて200名以上の人員が、より良い産業システム製品の開発・設計・製造・品質保証に携わり、新たな工場で「ものづくり」に励んでいる。



滋賀竜王製作所（2018年）

コラム

由緒塚

横浜製作所の稲荷神社の脇に、「由緒塚^{ゆいしょづか}」という石碑がある。

これは、かつての戸塚工場（横浜市戸塚区）に建立されていたもので、当社の工場再編に伴って、現在の横浜製作所が金沢区に移転した後の1989（平成元）年に、戸塚工場の跡地から移設されたものである。

戸塚工場が建設されていた地は、以前から身行塚と称されて、南北朝時代の将士が合葬されたと言われていたが、1939（昭和14）年、戸塚工場を開設する際の造成工事中に、実際に地中から多数の人骨が掘り出された。それらの人骨は丁寧に葬られ、その慰霊と史跡を風化させないために建立されたのが由緒塚である。

石碑の由来からすれば、本来は戸塚工場の跡地にそのまま残しておくべき記念碑かもしれないが、現在は横浜製作所の一つのモニュメントとして、かつての工場名を今に伝えている。

碑文の原文

此ノ由緒塚ハ前ニ身行塚ト稱シ南北朝時代戦歿将士ヲ合葬セシ塚ナリ適々此ノ地ヨリ發掘セルヲ以テ史跡懐古且ツ由緒保存ノ為建立ス

昭和十四年十二月建立
東洋電機製造株式会社

横浜市戸塚区上倉田町富瀬八六五ヨリ移設
平成元年五月

碑文の現代文

この由緒塚は、以前は身行塚という名称で、南北朝時代に戦没した将士（武将と兵士）を合葬した塚である。たまたまこの地から発掘されたので、史跡を懐古し、その由緒を保存するために建立する。



横浜製作所 稲荷神社横の由緒塚



由緒塚（表）



由緒塚（裏）

企業の歴史: 生産拠点の変遷 (創業時～)

